

WEEKLY SIGNAL

2019年11月8日(金) 1499号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/11(月)	11/12(火)	11/13(水)	11/14(木)	11/15(金)
無担保O/N			△0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,100	+ 1,000	トシ	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 14,400	△ 1,000	△ 8,000	△ 1,000	△ 8,000
資金需給	△ 13,300	トシ	△ 8,000	△ 2,000	△ 9,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・6M) 国債発行(10年物価連動債)		源泉税揚げ 国債発行(30年)		国債発行(5年) 国債償還(2年)
オペ期日	共通担保(全店) △ 5,600 補完供給 + 200 CP等買入 △ 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 4,500				
(日本)	国際収支:経常収支(9月) 貿易収支(国際収支ベース)(9月) 景気ウォッチャー調査(10月)	日銀営業毎旬報告(11月10日現在)	国内企業物価指数 前月比(10月)	GDP(季節調整済/前期比)(3Q) GDPデフレーター(前年比)(3Q)	鉱工業生産(前年比)(9月)
(海外)	米 祝日(ベテランズデー) 英 鉱工業生産(9月) 英 GDP(3Q)	米 ファイデラルフィア連銀総裁、講演 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 英 ILO失業率(7-9月)	米 ハウエルFRB議長、 上下両院合同経済委員会で証言 米 ミネアポリス連銀総裁、質疑応答 米 CPI(10月) 米 財政収支(10月) ユーロ圏 鉱工業生産(9月)	米 クラリタFRB副議長、講演 米 サンフランシスコ連銀総裁、 アジア経済政策会議で冒頭の挨拶 米 シカゴ連銀総裁、講演 米 NY連銀総裁、講演 米 セントルイス連銀総裁、講演 米 PPI(10月) 米 新規失業保険申請件数 (9日終了週) ユーロ圏 GDP(3Q)	米 NY連銀製造業景況感指数(11月) 米 鉱工業生産(10月) 欧 EU財務相理事会 ユーロ圏 CPI(10月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初5日の税・保険揚げの影響で先週末対比4,900億円減少の407兆1,600億円から始まった。その後7日の10年国債発行の影響でさらに減少し、406兆1,800億円を越えた。
今週の無担保コールON物は、調達側に日銀当座預金の基礎残高・マクロ加算残高の調整に目途がついた先が増え、週末にかけて徐々に弱くなっていく地合いとなった。同加重平均金利は、週初5日△0.027%であったが、週末8日には同金利は△0.050%まで低下した。
ターム物は1W物を中心に、主に△0.03%~△0.02%の水準で出合いが見られた。
内閣府が8日公表した9月の景気動向指数(2015年=100)速報値は、景気の現状を示す一致指数が前月比2.0ポイント上昇の101.0ポイントとなった。内閣府は景気の基調判断を「悪化」に据え置いた。
来週の主な予定は、国内では貿易収支の公表(11日)や、7-9月期のGDP速報値の公表(14日)などがあり、海外ではパウエル米FRB議長の上下両院合同経済委員会の証言(13日)や、EU財務相理事会(15日)などがあげられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約3,000億円で、週間償還額(約2,600億円)を上回った。鉄鋼やその他金融業態の大型案件があったことから償還額を上回る発行となったが、案件数は少なく落ち着いたマーケットとなった。発行残高は、先週末の19兆9,662億円から相対発行を含め、7日時点では約20兆1,600億円となった模様。発行レートは0%近辺でほぼ横ばい推移であった。
来週の償還総額(11/11~11/15)は、6,900億円程度となっている。5・10日発行があるものの、今回同様落ち着いたマーケットを予想する。発行レートは、引き続き浅いマイナスから0%近辺でのレンジを予想する。

<TDB>

11月7日の6M868回債入札結果は最高落札利回り0.1462%(前回債△0.2708%)、平均落札利回り△0.1563%(同△0.2967%)となり、入札後は△0.200%~△0.180%で取引された。8日の3M869回債(2月17日償還)の入札結果は最高落札利回り△0.1451%(前回債△0.1579%)、平均落札利回り△0.1492%(同△0.1700%)となり、入札後は△0.21%で出合いが見られた。そのほかのセカンダリーでは、867回債(2月10日償還)が△0.190%~△0.1708%のレンジで取引された。来週は15日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.095%~△0.08%で始まり、週末にかけて低下した。特に11日受渡しについては、短国3M、6Mの発行が重なったものの、一時△0.15%前後での取引も見られた。SC取引は20年170回債の引き合いが多く見られ、週前半は△0.20%近辺、週末には△1%台の出合いも見られた。その他2年402~406回債、5年137~141回債、10年336~356回債、20年164・166~169回債、30年62~64回債、40年9・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。